



# 第121期 中間 株主通信

2011年4月1日 ▶ 2011年9月30日

 飯野海運株式会社

証券コード 9119





代表取締役社長

関根知之

## 目次

株主の皆様へ	1
ビジネスレポート	2
ニュース&トピックス	5
財務ハイライト	7
会社概要	9
株式情報	10

## 当中間期の業績について

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。第121期中間株主通信（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）をお送りするにあたりひとことご挨拶申し上げます。

当中間期（第2四半期連結累計期間）の世界経済は、欧州の財政危機の深刻化や米国経済の減速懸念などにより、先進国を中心に景気の下振れリスクが一段と高まりました。わが国においても、長引く円高やデフレ、厳しい雇用環境に加え、世界経済の減速、電力供給の制限による影響が懸念されるなど、依然として厳しい状況にあります。海運業においても、世界経済の減速の影響を受けた石油化学製品や鉄鉱石を中心とした荷動きの低迷に加え、新造船流入が運賃の押し下げ要因になっております。不動産業においても、国内の厳しい景気を反映し、オフィスフロアの空室率は高止まりしております。

このような厳しい状況の中、当社グループの当中間期の連結業績は、円高や海運市況の低迷による収益の悪化、建替工事中であった飯野ビルディングの諸経費の計上などにより、売上高381億円、営業損失0.4億円、経常損失11億円、四半期純損失は7億円となりました。

## 今後の取り組みについて

さて、当社は本年4月に中期経営計画「Ino's Evolutionary Growth Plan to 2014（IEG14）一成長と進化」を策定しました。最初の1年が勝負との認識のもと、当社グループ一丸となって計画の実行に取り組んでおります。当中間期の具体的な取り組みとしましては、計画の柱の一つ目である「ケミカル船事業の構造改革」では、19,000DWT型のケミカルタンカー5隻を返船する一方で25,000DWT型および33,000DWT型の3隻を新たに投入、運航の効率化と採算性の向上に努めました。二つ目の柱である「不動産事業を含めた安定収益基盤の強化」では、飯野ビルディングは全フロアの契約を獲得し10月1日に開業を迎えました。更なる安定収益基盤の強化に向け、新規プロジェクトの検討を進めてまいります。三つ目の柱である「新興国需要を取り込んだ中小型船の事業展開」では、アジア域を中心とした事業展開、新規プロジェクトの検討を進めております。

下半期の見通しについては、海運業では円高の進行やタンカー市況が引き続き不透明な状況ですが、不動産業では、飯野ビルディングからの安定収益により、一定の経営状況の改善が見込まれます。

なお、中間配当金につきましては7月29日に発表しておりますとおり、誠に遺憾ではございますが無配とさせていただきます。期末配当金は、下半期以降、不動産業では安定的な収入を予想しておりますが、海運業では円高の影響を大きく受けることや市況の見通しが不透明ですので、現時点では未定とさせていただきます。

今後とも、株主の皆様のご期待にお応えできるよう精励いたしますので、引き続き倍日のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 外航海運業

売上高 313億9百万円  
営業損失 59百万円



### ■ オイルタンカー

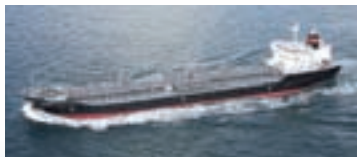
中国をはじめ新興国の石油需要は伸びたものの、依然として新造船の供給圧力が強く、船腹需給が悪化したため、市況は原油タンカー・プロダクトタンカーともに総じて弱含みで推移しました。当社グループの原油タンカー・プロダクトタンカーは、一部船舶で入渠による稼働の減少もみられましたが、支配船腹のほとんどを中長期契約へ継続投入し、安定収益を確保しました。



KOHOI 301,045DWT (オイルタンカー)

### ■ ケミカルタンカー

運賃市況は6月以降、中国での金融引き締め策や欧州での財政問題の影響により海上輸送量が減少した結果、軟化基調に転じましたが、9月には中国の輸入需要が復活したことに加え、東南アジアからのパームオイル輸送が活発化したことにより回復しました。当社グループのケミカルタンカーは、主力の中東からアジアおよび欧州向け航路での安定的な輸送に加え、ジョイントベンチャーによる大西洋中心の配船も米国および南米からの輸送量を確保し安定した配船を行いました。更に19,000DWT型の返船といった船腹調整や既存契約の有利更改、新規数量輸送契約の獲得に加え、スポット輸送の積極的な取り込みにより、採算性向上に努めました。



CHEMROUTE BRILLIANT 25,594DWT (ケミカルタンカー)

### ■ 大型ガスタンカー

LPGタンカー市況は、中東諸国からの新規増産に伴うスポット貨物が潤沢に供給されたことから、春先より高水準で安定推移しました。LNGタンカー市況は、各国プロジェクトが順調に稼働したことなどから短期・中期の用船料が高値圏で上昇を続けました。当社グループの大型ガスタンカーは、LPGタンカー・LNGタンカーともに中長期契約へ投入し、安定収益を確保しました。



SK SUNRISE 138,270M3 (大型LNGタンカー)

### ■ ドライバルクキャリアー

ドライバルクキャリアー市況においては、中国の粗鋼生産の低迷や、新造船竣工による船腹の供給過多により、全船型において市況は総じて低水準で推移しましたが、8月に入り船腹需給の改善により上昇しました。当社グループのドライバルクキャリアーは、製紙会社向け木材チップ専用船、電力・一般産業向け石炭専用船や数量輸送契約の安定収益に加え、市況を勘案した用船・配船を行い、収益の維持に努めました。



BLUE ISLAND 152,398DWT (ドライバルクキャリアー)

## 内航・ 近海海運業

売上高 42億91百万円  
営業利益 34百万円



### 小型ガスタンカー

内航輸送におけるLPGの荷動きは、需要の減少により低迷しました。石油化学ガスの荷動きも低調なプラント稼働、誘導品価格の低迷や国内在庫高から低迷しました。近海輸送では、市況を牽引していた中国との荷動きが、同国からの石油化学加工製品の輸出不振や在庫高から減少しました。当社グループの内航・近海海運業のうち内航輸送では、地震で被災したプラントの不稼働により4月～6月の輸送が長距離化し、船腹の稼働は増加しました。7月～9月の夏場不需要期には船腹の稼働が低迷する局面もありましたが、専航船の安定輸送もあり、当中間期では船腹の稼働は増加しました。近海輸送では船隊の多くを中長期契約に継続投入し、安定収益を確保しました。



桃邦丸 1,443M3(小型LPGタンカー)

## 不動産業

売上高 24億89百万円  
営業損失 17百万円



### 不動産賃貸／不動産関連事業

東京都心5区の賃貸ビル市況は、依然として空室率が高水準にあり、賃料相場の緩やかな下落が続きました。しかし空室率は小幅ながら6ヶ月連続して低下していることに加え、賃料の下落幅も縮小傾向にあるため、底打ち感も出てきました。当社グループの**不動産賃貸事業**では、所有ビルのテナントに対して良質なサービスの提供に努め、安定的な稼働を維持しました。また飯野ビルディングの建替工事は計画通りに進捗し、10月1日に開業しました。

なお、当社グループの**不動産関連事業**では、運営するフォースタジオにおいてスペースの賃貸だけでなく、各種広告、デザイン制作、レタッチングなど幅広いサービスを顧客に提供しております。景気の落ち込みによりフォースタジオの稼働が低調であったため、スタジオ収益は落ち込んだものの、デザイン制作での大型受注もあり、全体としては安定収益を確保しました。



イノ・南青山スタジオ

(単位：億円)

科目	第119期		第120期		第121期	
	第2四半期(累計)	通期	第2四半期(累計)	通期	第2四半期(累計)	通期(予想)
売上高	378	770	383	745	381	770
海運業	351	718	356	692	356	—
外航海運業 <sup>※</sup>		636	314	609	313	—
内航・近海海運業 <sup>※</sup>		83	42	83	43	—
不動産業	27	52	28	53	25	—
営業利益又は営業損失(△)	21	41	15	24	△0.4	10
海運業	18	34	11	15	△0.3	—
外航海運業 <sup>※</sup>		31	9	11	△0.6	—
内航・近海海運業 <sup>※</sup>		3	2	5	0.3	—
不動産業	3	7	5	9	△0.2	—

※ 第120期より、「海運業」セグメントを「外航海運業」「内航・近海海運業」に分割しました。(注) 営業利益又は営業損失(△)の第121期第2四半期(累計)については千万円未満を四捨五入しております。

## ■ 運航船腹

(平成23年9月30日現在)

船種	保有形態	社 船		用 船		合 計	
		隻 数	重量トン数	隻 数	重量トン数	隻 数	重量トン数
外航海運業	オイルタンカー	4	951,928	3	214,727	7	1,166,655
	ケミカルタンカー	10	286,156	26	843,502	36	1,129,658
	大型ガスタンカー	13	910,224	2	79,595	15	989,819
	ドライバルクキャリアー	8	506,816	19	818,029	27	1,324,845
内航・近海海運業	小型ガスタンカー	16	22,325	13	41,998	29	64,323
合 計		51	2,677,449	63	1,997,851	114	4,675,300

(注) 1. 社船には、グループ会社が所有する船腹を含みます。

2. 社船のうち、大型ガスタンカー12隻およびドライバルクキャリアー2隻は他社と共有しており、その共有相手持分は798,110重量トン (K/T) です。

## ■ 賃貸ビル

(平成23年9月30日現在)

名 称	所在地・延床面積 (m <sup>2</sup> )
東京桜田ビル 	東京都港区西新橋 17,762.63
東京富士見ビル 	東京都千代田区富士見 10,674.86
飯野竹早ビル 	東京都文京区小石川 4,736.37
笹塚センタービル 	東京都渋谷区笹塚 11,973.11
夕留芝離宮ビルディング 	東京都港区海岸 32,702.37
合計	77,849.34

名 称	所在地・延床面積 (m <sup>2</sup> )
飯野ビルディング (2011年10月1日開業) 	東京都千代田区内幸町 約 104,000

\*東京桜田ビル、東京富士見ビルおよび夕留芝離宮ビルディングは、他者と共有しており、延床面積には他者持分を含めて記載しております。

# ニュース&トピックス

## 飯野ビルディング開業

かねてより開発を進めてきた「飯野ビルディング」（以下「飯野ビル」という）のI期工事が完了し、平成23年10月1日に開業を迎えました。

飯野ビルの建替計画にあたりましては、「繋ぐ」を開発基本コンセプトに、旧飯野ビルの伝統の継承、周辺環境との調和を図り「100年先にも愛されるビル」を目指しました。新しく生まれかわった飯野ビルは、最先端の環境性能を取り入れた大型総合ビルとなっております。

### 飯野ビル建築概要

所在地	：東京都千代田区内幸町二丁目1番1号
用途	：事務所・店舗・ホール
敷地面積	：8,027㎡
延床面積	：約104,000㎡（含むⅡ期工事）
階数	：地上27階、塔屋2階、地下5階
高さ	：147m
構造	：鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造
駐車場収容台数	：212台
設計・設計監理	：株式会社竹中工務店
設計監修・工事監理	：株式会社日建設
施工	：株式会社竹中工務店



「翁千歳三番叟」

開業に際しまして、10月5日に「飯野ビル竣工式典」が開催されました。竣工式典の一環として、新装再オープンとなったイイノホールにおいて行われた柿おとし公演では、51年前に旧イイノホールの柿おとしでも演じられた「翁千歳三番叟」が、翁花柳壽輔、立唄杵屋喜三郎はじめ当代一流の演者により舞い納められ、ご招待したお客様にも好評でした。

また、竣工式披露宴には、今般飯野ビルに入居されるテナント様、飯野ビルの新築工事にご尽力頂いた工事関係の方々、また、日頃からお世話になっている当社グループの顧客の皆様方をはじめ多くの方々にご参列頂きました。



竣工式披露宴で挨拶する  
関根知之社長

## ■ 当社グループの環境政策について

### ～DBJ Green Building認証取得と環境格付の獲得～

当社グループでは、経営理念の一つとして「環境保護」を掲げ、日頃から、役職員一体となって環境を重視して業務に邁進しております。

当社グループの所有ビル、管理船舶においても環境、安全に配慮した設計、管理に努めております。

これらの取り組みが評価された結果、平成23年9月30日に株式会社日本政策投資銀行(以下「DBJ」という)より「DBJ Green Building認証」に基づき飯野ビルが「プラチナ」(最高ランク)認証、汐留芝離宮ビルディングが「ゴールド」認証を取得しました。加えて同日付で、DBJから「DBJ環境格付」を取得し、DBJからの飯野ビル設備資金借入れがその対象となりました。

なお、DBJ Green Building認証およびDBJ環境格付の同時取得は、国内で初めての事例となります。

## ■ 環境格付の獲得

DBJの環境格付評価においては、主に、当社の創業来の主業である海運事業の審査を受け、

(1) 2004年に当社グループの船舶管理会社であるイノマリンサービス株式会社が日本で初めてグリーンアワード認証を取得したことに代表される、運航オイルタンカーの安全・環境対策を徹底している点

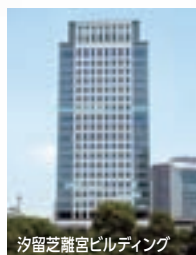
(2) 安全情報を船主等のステークホルダー間で定期的に共有する場を設けている点

(3) 外部専門家を招聘した検船システム「ナビゲーションオーディット」を導入している点

など、経営理念の一つである「安全の確保が社業の基盤」を具現化し、実践している点についてご評価頂いた結果、当社は、「環境への配慮に対する取り組みが先進的」との格付を取得しました。

## DBJ Green Building認証取得

飯野ビルでは(1)オフィスフロアにおける全面的なLED照明の採用や自然通風の積極的活用をはじめとして、優れた環境性能を実現している点(2)都心における文化・交流拠点として、コンサート・講演会等に利用できるイノホールを併設し、オフィスビルの枠組みを超えた付加価値を創出している点(3)周辺街区および自然環境への配慮から、屋上・壁面緑化に加え、敷地内に日比谷公園の植生に配慮した「イノの森」計画を有している点などについてご評価頂きました。



汐留芝離宮ビルディング

汐留芝離宮ビルディングでは

- (1) 十分な快適性、安全性を確保しつつ、高い環境・省エネ性能を有している点
- (2) テナントおよびビル管理者との省エネ会議の開催を通じ、エネルギーの使用状況および削減目標に関する情報共有を図っている点など、ハード・ソフト両面にわたっての環境への配慮をご評価頂きました。

今回の「DBJ Green Building認証」および「DBJ環境格付」は、日頃からの環境を重視した業務の取り組みに対してご評価頂いたものと考えております。今後も役職員一同、これらの取り組みを継続してまいります。



当社は、平成23年9月日本政策投資銀行(DBJ)より環境格付融資を受け、格付結果は「環境への配慮に対する取り組みが先進的」と評価されました。

# 財務ハイライト

## 連結貸借対照表

(単位：百万円、単位未満四捨五入)

科目	前連結会計年度末 (平成23年3月31日現在)	当第2四半期連結 会計期間末 (平成23年9月30日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	24,945	24,243
固定資産	159,898	187,636
有形固定資産	143,142	171,775
無形固定資産	764	700
投資その他の資産	15,991	15,161
<b>① 資産合計</b>	<b>184,842</b>	<b>211,879</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	32,798	31,878
固定負債	99,173	128,632
<b>① 負債合計</b>	<b>131,971</b>	<b>160,510</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	50,580	49,680
資本金	13,092	13,092
資本剰余金	6,432	6,432
利益剰余金	33,362	32,462
自己株式	△2,305	△2,305
その他の包括利益累計額	1,685	1,044
その他有価証券評価差額金	298	△317
繰延ヘッジ損益	1,502	1,476
為替換算調整勘定	△116	△116
少数株主持分	606	646
純資産合計	52,871	51,370
負債純資産合計	184,842	211,879

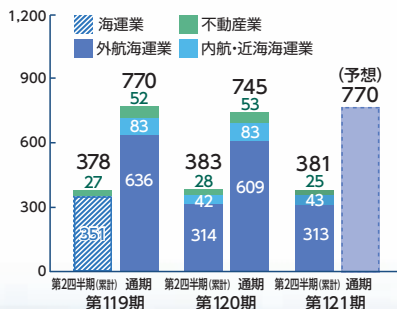
## 連結損益計算書

(単位：百万円、単位未満四捨五入)

科目	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	38,319	38,080
売上原価	33,561	34,945
売上総利益	4,758	3,135
販売費及び一般管理費	3,227	3,177
<b>② 営業利益又は営業損失 (△)</b>	<b>1,531</b>	<b>△42</b>
営業外収益	643	225
営業外費用	1,456	1,316
経常利益又は経常損失 (△)	718	△1,133
特別利益	127	1,312
特別損失	406	850
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失 (△)	439	△671
法人税等合計	73	44
少数株主損益調整前四半期純利益又は 少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	366	△714
少数株主利益又は 少数株主損失 (△)	2	△28
四半期純利益又は 四半期純損失 (△)	364	△687

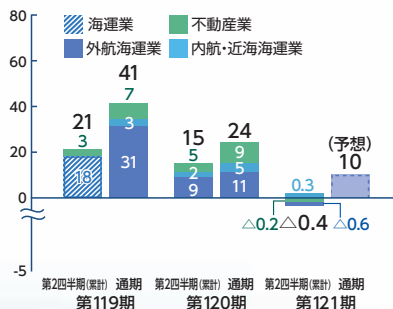
## 売上高

(単位：億円)



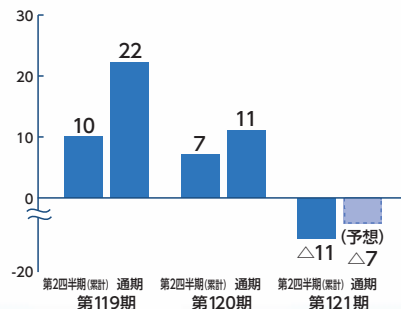
## 営業利益又は営業損失 (△)

(単位：億円)



## 経常利益又は経常損失 (△)

(単位：億円)



※売上高、営業利益、経常利益、純利益、総資産・純資産は億円未満を四捨五入しておりますが、営業利益の第121期第2四半期(累計)については千万円未満を四捨五入しております。

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位：百万円、単位未満四捨五入)

科目	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間
	(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,372	3,868
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,743	△32,541
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,804	28,140
現金及び現金同等物に係る換算差額	△291	△189
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△859	△721
現金及び現金同等物の期首残高	13,728	13,091
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,869	12,370

### キャッシュ・フロー分析

円高や海運市況の下落等による利益の減少により「営業活動によるキャッシュ・フロー」は前年同期比15億4百万円の収入減となりました。主に飯野ビルディングの竣工時払いにより、「投資活動によるキャッシュ・フロー」は前年同期比197億98百万円の支出増、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は前年同期比213億36百万円の収入増となりました。

### Point① 資産・負債の増減

飯野ビルディング建替工事の進捗や船舶に対する投資を行った結果、総資産残高は前連結会計年度末比270億37百万円の増加となりました。また、投資に対して資金借入れを行った結果、負債残高は前連結会計年度末比285億39百万円の増加となりました。

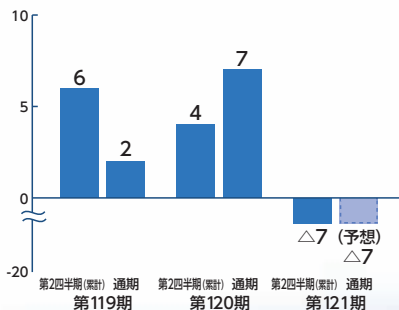
### Point② 営業損益

円高や海運市況の低迷の影響、飯野ビルディング建替諸費用の計上などにより営業損益は前年同期比15億73百万円の減益となりました。

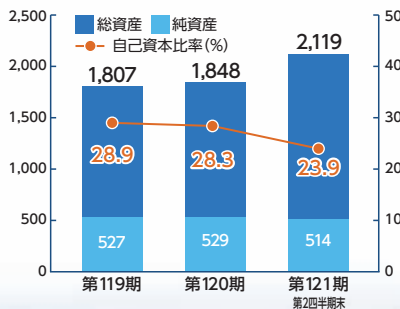
■ 詳細につきましては当社ホームページよりご覧いただけます。

<http://www.iino.co.jp>

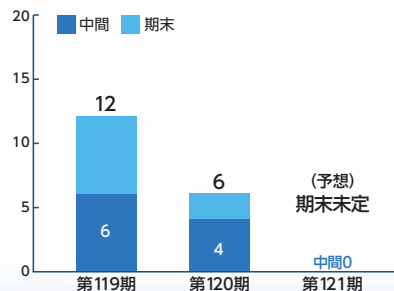
## ■ 純利益又は純損失(△) (単位:億円)



## ■ 総資産・純資産・自己資本比率 (単位:億円)



## ■ 配当金 (単位:円)



## 会社概要

商号	飯野海運株式会社 IINO KAIUN KAISHA, LTD. (略称：IINO LINES)	
創業	1899 (明治32) 年7月	
資本金	13,091,775,488円	
主要事業内容	海運業、不動産業	
本店	〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1番1号	
本社*	〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1番1号 飯野ビルディング	
事業所	海外	ドバイ 海外現地法人 シンガポール、ロンドン、 コネチカット
グループ会社	連結対象子会社	51社
	持分法適用関連会社	4社
	連結対象外関係会社	14社
	合計	69社
上場取引所	東京、大阪(各第一部)、福岡	

\*平成23年10月11日より新住所となっております。

## 取締役および監査役ならびに執行役員

役職	氏名	担当および他の法人等の代表状況等
代表取締役社長 社長執行役員	関根 知之	
代表取締役 常務執行役員	中上 良彦	総務企画グループ管掌、財務グループ管掌および人事グループ担当
取締役 常務執行役員	星野 憲一	不動産営業グループ担当
取締役 常務執行役員	近光 護	海運営業第2グループ担当および海運営業第4グループ担当
取締役 常務執行役員	安齋 容一郎	海運営業第1グループ担当、海運営業第5グループ担当および海外担当
取締役 常務執行役員	根本 滋	船員グループ担当、海務安全グループ担当およびイイノマリンサービス(株)代表取締役社長
取締役 常務執行役員	大橋 恵明	財務グループ担当およびステーキホルダーリレーションズマネジメント・調査グループ担当
取締役 執行役員	大野 伸二	経理グループ担当およびイイノマネジメントデータ(株)代表取締役社長
取締役 執行役員	三宅 茂樹	イイノガストランスポート(株)代表取締役社長
執行役員	宮下 和友	海務安全グループ担当補佐およびイイノマリンサービス(株)常務取締役
取締役 執行役員	當舍 裕己	総務企画グループ担当、海運営業第5グループ担当補佐および総務企画グループリーダー委嘱
執行役員	岡田 明彦	財務グループリーダー
執行役員	小藺江 隆一	海運営業第5グループリーダーおよびIino Singapore Pte. Ltd.取締役社長
監査役	岡田 俊雄	(常勤)
監査役	河原 一夫	(常勤)
監査役	鈴木 進一	社外監査役
監査役	石井 信彦	社外監査役
監査役	廣岡 三喜雄	社外監査役

(注) 当社は、上場している各証券取引所に対して、監査役 鈴木進一および監査役 廣岡三喜雄の両氏を独立役員として届出ております。

## 株式の状況

発行可能株式総数	440,000,000株
発行済株式の総数	111,075,980株
株主数	10,575名

## 大株主 (上位10名)

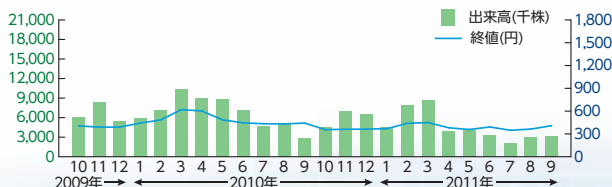
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
東京海上日動火災保険株式会社	6,264	5.87
川崎汽船株式会社	5,940	5.56
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン スペシャル アカウント ナンバーワン	4,521	4.23
株式会社みずほコーポレート銀行	4,296	4.02
三井物産株式会社	4,200	3.93
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505041	3,899	3.65
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	3,682	3.45
日本トラスティ サービス信託銀行株式会社 (CMTB信託口)	3,622	3.39
飯野海運取引先持株会	3,468	3.25
日本生命保険相互会社	2,507	2.35

(注) 大株主および持株比率の計算からは、自己株式 (4,423千株) を除いております。

## 所有者別株式分布状況



## 株価および出来高の推移



## インフォメーション

### ■「特別口座」で株式をお持ちの株主様へ

株券電子化前に証券保管振替機構 (ほふり) へ預託されなかった株主様には、当社の株主名簿管理人である中央三井信託銀行に「特別口座」を開設しております。特別口座は、株主様の権利を保全するための暫定的な口座であり、この特別口座に記録された株式は、証券会社の取引口座に振り替えなければ売買できませんので、お早めに証券会社の取引口座への振替をお願いいたします。

特別口座からの振替のお手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行、または、お取引の証券会社へお問い合わせください。

### ■株主名簿管理人の合併について

当社の株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社は、関係当局の許認可を前提に、住友信託銀行株式会社、中央三井アセット信託銀行株式会社と平成24年4月1日をもって合併し、「三井住友信託銀行株式会社」となります。なお、平成24年4月1日 (日) は、株主名簿管理人の休業日につき、実際のお取扱いは、平成24年4月2日 (月) からとなります。

株式に関する事務取扱いは、平成24年4月1日 (日) [実質上は平成24年4月2日 (月)] より、次のとおりとなります。

**株主名簿管理人** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

**特別口座の  
口座管理機関** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

**郵便物送付先・  
電話照会先** 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(住所、電話番号の変更はございません)

# 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	6月に開催いたします。
定時株主総会の基準日	3月31日 なお、上記のほか必要があるときは、 予め公告いたします。
配当基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日（中間配当実施の場合）
単元株式数	100株
株主名簿管理人	中央三井信託銀行株式会社 東京都港区芝三丁目33番1号
郵便物送付先	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-78-2031（フリーダイヤル）
事務取次窓口	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
公告の方法	電子公告 ただし、電子公告によることができない事故 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に掲載して行うこととします。 当社の公告はホームページに掲載しております。 <a href="http://www.iino.co.jp">http://www.iino.co.jp</a>
飯野海運株式会社	〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1番1号 飯野ビルディング 電話（03）6273-3069 ホームページアドレス <a href="http://www.iino.co.jp">http://www.iino.co.jp</a>



この株主通信は、FSC®認証紙と、環境に優しい  
植物油インキを使用しています

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。